



高体連会報

青春の躍動

更なる高みを目指して



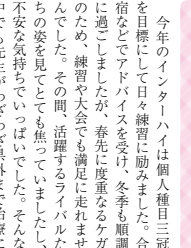
山梨県甲府市で先行開催された陸上競技において、松江商業(大社)が二日連続で優勝する。そして三日目の棒高跳びで澤根吾選手(大社)が日本記録を樹立し、期待が高まる。式に先立ち、県教育委員会の吉城育雄氏が激励の言葉を述べ、その後、味城スタジアムに併設された、本県選手団を代表し、佐藤誠選手(松江商業)を旗手に、男子バレーボール、男女テニス、水泳などの三競技の選手、監督、そして本部員で参加した。二十七八競技に参加する四十七名の選手すべてに思いを背に、代表選手たちは実を堂々と出場し、真摯な態度で式に臨み、



「勝つことの難しさを実感した人も多くいた」と思いますが、そのように人を含め、参加したすべての選手の健闘を讃えたいと思います。さて、各種目の優勝者のインタビューを聞いたり、紙面に掲載された記事を読んだりして思うことがありますが、それは、ほとんどの選手が二〇二〇年の東京オリンピックを意識していることです。インターハイは高校生アスリートにとって最大の目標であるように捉え、更なる高みを目指している選手が多くなると感じています。期待したいと思えます。新チームの皆さんには、来年度(二〇一五)が創る近畿総体出場を目指して練習に励んでいただきたいと思えます。特に、一年生の皆さんは、平成二八年平度中京ブロック大会インターハイ開催のインスピレーションを念頭に、お進みされることを期待しています。

煌めく青春 南関東総体2014 ~栄えある全国入賞~

今年のインターハイは個人種目三冠を目指して日々練習に励みました。合宿などでアドバンスを受け、冬も順調に過ごしましたが、春先にも度々ケガのため、練習や大会でも満足に走れなかった。その間、活躍するライバルたちの姿を見て、もどかしく思っていました。中々先生がわざわざ県外まで治療に連れて行ってくださった、また仲間たちの応援やサポートがあったりして、インターハイに進むことができました。サポートをしてくださった方々にも必ず三冠を達成しようと思えました。



松江商業高等学校 陸上競技部 青山聖佳

〇mで優勝し、〇〇mは三位、目標としていた三冠が達成できず、とても悔しかったのですが、負けて学ぶこともあり、収穫のある試合でした。二冠も充分誇れる成績だと思っています。先生や仲間たちへの恩返しでもできたのではないかと思います。最初は大きな大会が控えています。アジア大会への参加が認められました。自分が次に大きな大会で活躍するためには、金メダルを取らなければなりません。これがわかりました。個人種目として今以上の力を出し、金メダルを目指して頑張りたいと思います。

「インターハイを終えて」

大社高等学校 陸上競技部 澤 慎吾

昨年のインターハイは、四位という結果でメダルに届かず悔しい思いをしました。課題も見つかり、来年は必ず優勝するつもりです。日々の練習に取り組みたいです。今シーズンは順調に記録を伸ばし、県総体、中国大会にも五メートル一〇センチメートルでインターハイの切符を手にしました。今年のインターハイは、県勢初の高跳び優勝が懸かっている、大きなプレッ

「インターハイを終えて」

松江商業高等学校 ボート部 二村 真智子

私は二年生の時に出場した全国総体では準決勝で負けてしまいました。決勝の上がることはできませんでした。その時の負けてしまった悔しさは今でも覚えています。同時に、決勝で滑りこぎや表彰台に立つことに強い憧れを持ち、準決勝で勝つことができた喜びを見てきました。絶対に決勝までいきたいと思っていました。三年生になって全国選抜大会に出場しましたが、思っていたような結果が残せず、全国で通用するにはまだと

「南関東総体(二〇一四)に参加して」

平田高校 柔道部 佐々木 ちえ

私は今年の夏、千葉県成田市で開催された「偉大な青春 南関東総体二〇一四」に個人六三級級の島根県代表として出場させてもらった。これからは、新たな目標に向かって精一杯がんばりたいと思っています。

「夢の舞台に立てた喜び」

出雲農林高等学校 ウエイトリフティング部 山下 大智

昨年の長崎総体では日本一が決まった瞬間を目撃した。そのレベルの高さと勝負の厳しさを痛感した。そして自分も表彰台に立ちたいという大きな目標を抱きよつた。この一年は厳しくトレーニングに耐えることができた。迎えた今年の山梨総体では、必ず入賞するつもりで臨んだ。大会中、これまで経験したことのない興奮と緊張感が襲い、自分をコントロールすることが難しかった。その影響からか、スタート二回目で六秒及ばない九秒という結果が入賞が厳しい状況に陥った。後半ジャーマンの巻返しを思いながらも入賞は難しいかなという気持ちで正直なところ、しかし「全大会は何が起きるか分からない」と先生に励まされ、気持ちを落ち着かせることができた。ジャーマンでは、ベストには届かなかったものの一回目に三二秒をかけることができた。だがこの二回目に三二秒という結果が出た。だがこの二回目に三二秒という結果が出た。だがこの二回目に三二秒という結果が出た。

「南関東総体(二〇一四)に参加して」

平田高校 柔道部 佐々木 ちえ

私は今年の夏、千葉県成田市で開催された「偉大な青春 南関東総体二〇一四」に個人六三級級の島根県代表として出場させてもらった。これからは、新たな目標に向かって精一杯がんばりたいと思っています。

「南関東総体(二〇一四)に参加して」

平田高校 柔道部 佐々木 ちえ

私は今年の夏、千葉県成田市で開催された「偉大な青春 南関東総体二〇一四」に個人六三級級の島根県代表として出場させてもらった。これからは、新たな目標に向かって精一杯がんばりたいと思っています。

「南関東総体(二〇一四)に参加して」

平田高校 柔道部 佐々木 ちえ

私は今年の夏、千葉県成田市で開催された「偉大な青春 南関東総体二〇一四」に個人六三級級の島根県代表として出場させてもらった。これからは、新たな目標に向かって精一杯がんばりたいと思っています。

「南関東総体(二〇一四)に参加して」

平田高校 柔道部 佐々木 ちえ

私は今年の夏、千葉県成田市で開催された「偉大な青春 南関東総体二〇一四」に個人六三級級の島根県代表として出場させてもらった。これからは、新たな目標に向かって精一杯がんばりたいと思っています。

「南関東総体(二〇一四)に参加して」

平田高校 柔道部 佐々木 ちえ

私は今年の夏、千葉県成田市で開催された「偉大な青春 南関東総体二〇一四」に個人六三級級の島根県代表として出場させてもらった。これからは、新たな目標に向かって精一杯がんばりたいと思っています。

「南関東総体(二〇一四)に参加して」

平田高校 柔道部 佐々木 ちえ

私は今年の夏、千葉県成田市で開催された「偉大な青春 南関東総体二〇一四」に個人六三級級の島根県代表として出場させてもらった。これからは、新たな目標に向かって精一杯がんばりたいと思っています。

「南関東総体(二〇一四)に参加して」

平田高校 柔道部 佐々木 ちえ

私は今年の夏、千葉県成田市で開催された「偉大な青春 南関東総体二〇一四」に個人六三級級の島根県代表として出場させてもらった。これからは、新たな目標に向かって精一杯がんばりたいと思っています。

「南関東総体(二〇一四)に参加して」

平田高校 柔道部 佐々木 ちえ

私は今年の夏、千葉県成田市で開催された「偉大な青春 南関東総体二〇一四」に個人六三級級の島根県代表として出場させてもらった。これからは、新たな目標に向かって精一杯がんばりたいと思っています。

平成26年度 全国高等学校総合体育大会(南関東)成績

No.	成績	種目	氏名	学校
1	1位	陸上競技	男子 棒高跳	澤 慎吾 大社高校
2	1位	陸上競技	男子 200m	青山聖佳 松江商業高校
3	1位	陸上競技	女子 400m	青山聖佳 松江商業高校
4	2位	水泳(蝶泳)	男子 飛込種目	島田晴貴 松江商業高校
5	3位	陸上競技	女子 100m	青山聖佳 松江商業高校
6	5位	卓球	女子 53kg級	佐々木 ちえ 平田高校
7	5位	ボクシング	男子	横山高校
8	5位	ボクシング	女子	横山高校
9	5位	ボクシング	女子 フライ級	中村友美香 松江商業高校
10	5位	水泳(蝶泳)	男子 50m	島田晴貴 松江商業高校
11	8位	ウエイトリフティング	男子 77kg級	山下 大智 出雲農林高校

「夢の舞台に立てた喜び」

出雲農林高等学校 ウエイトリフティング部 山下 大智

昨年の長崎総体では日本一が決まった瞬間を目撃した。そのレベルの高さと勝負の厳しさを痛感した。そして自分も表彰台に立ちたいという大きな目標を抱きよつた。この一年は厳しくトレーニングに耐えることができた。迎えた今年の山梨総体では、必ず入賞するつもりで臨んだ。大会中、これまで経験したことのない興奮と緊張感が襲い、自分をコントロールすることが難しかった。その影響からか、スタート二回目で六秒及ばない九秒という結果が入賞が厳しい状況に陥った。後半ジャーマンの巻返しを思いながらも入賞は難しいかなという気持ちで正直なところ、しかし「全大会は何が起きるか分からない」と先生に励まされ、気持ちを落ち着かせることができた。ジャーマンでは、ベストには届かなかったものの一回目に三二秒をかけることができた。だがこの二回目に三二秒という結果が出た。だがこの二回目に三二秒という結果が出た。

「夢の舞台に立てた喜び」

出雲農林高等学校 ウエイトリフティング部 山下 大智

昨年の長崎総体では日本一が決まった瞬間を目撃した。そのレベルの高さと勝負の厳しさを痛感した。そして自分も表彰台に立ちたいという大きな目標を抱きよつた。この一年は厳しくトレーニングに耐えることができた。迎えた今年の山梨総体では、必ず入賞するつもりで臨んだ。大会中、これまで経験したことのない興奮と緊張感が襲い、自分をコントロールすることが難しかった。その影響からか、スタート二回目で六秒及ばない九秒という結果が入賞が厳しい状況に陥った。後半ジャーマンの巻返しを思いながらも入賞は難しいかなという気持ちで正直なところ、しかし「全大会は何が起きるか分からない」と先生に励まされ、気持ちを落ち着かせることができた。ジャーマンでは、ベストには届かなかったものの一回目に三二秒をかけることができた。だがこの二回目に三二秒という結果が出た。だがこの二回目に三二秒という結果が出た。

平成26年度 全国高等学校定時制通信制体育大会 島根県選手入賞一覧

No.	種目	学校名	成績
1	卓球	女子団体	浜田高校通信制 ベスト8

